

めだかの学校だより

平成 19 年 2 月 1 日
第 55 号

学会：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
〈事務局〉
浜松市横須賀 395-1
TEL053-586-8287

校長訓話

第五十五回校長 池田誠二郎

三語族から一語族へ

数十年前、私たちは、先輩や上司から「君たちはまさに現代っ子だね！僕達にはとてもついでにはゆけないよ！」などと言われたことが、昨日のように思いだされま

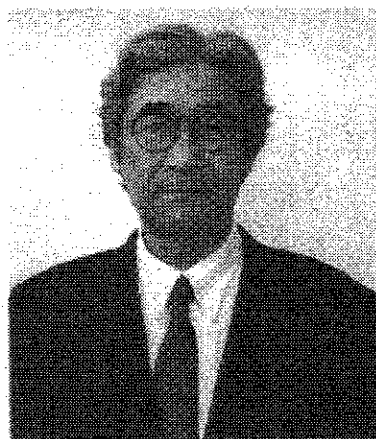
す。そして今、まったく同じような状況に遭遇しています。世代は代謝し脱皮するものの、生活を底辺でしっかり支えているはずの文化は、むしろ後方へ向かって脱皮しているのかも知れません。社会問題化している親子関係や食育等は、本来、自然な生活の中で受け継がれていくものです。こうした対策を叫ばねばならない実情は、生活文化の後退現象の段階をはるかに越えているものと言えるでしょう。

文化や子育てなど、さまざまな人間関係は、本来、地道な手作りの過程で醸成されるものといわれています。そしてその影響は、その時代を象徴するコミュニケーション・シジョン技術としての「表現法」に最も端的に現れます。

十五年ほど前、時代の若者を代表する「表現法」として「三語族」という言葉が話題となりました。これは「ウツソー・ホントー・カワイイ」などの三つの言葉で、すべての感情を表そうとするものです。補助的な表現は「ヤダー・シンジラレナイ・スゴイ・バツカミタイ」などの四つです。当時は、あまりの語彙の少なさに唖然としたものです。

現代の若者言葉は、「三語族」をさらに集約して「一語族」へと進化しています。「カワイイ」という言葉で、三十種類をこえる感情表現をしようとするのです。そして補助的な表現は「ヤバイ」のみです。たとえば、素晴らしい料理を目前にして「この料理

ヤバクナイ」などと言ったりします。こうした意味で「めだかの学校」に於る地道な活動は、単に時代を憂い警鐘を送るだけでなく、本物の文化を伝え育てるための実践の場として、重大な役割を果たしています。



めだかの学校伝言板

——第 55 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／池田誠二郎
教頭／荒木順子
用務員／馬淵亮太

給食係／浜口弘睦・萩田 博・馬淵亮太・
石野省三・古田賢二郎・加藤直樹・村木謙弼・
荒木順子・湯浅明美・西川裕子・内山ゆき糸・
鈴木偉代 渡辺ミツ子（チーフ）

〈学会〉静岡県浜松市引佐町東久留女木観音山
みどりの郷キャンプ場
TEL なし

開校日／平成 19 年 3 月 2 日（金）6:20PM より——

受付／鈴木一記・島田尚子・亀澤 進
斉藤 昭（後見人）

〈時間割〉一苦しい(?) 農業・楽しい(?) 農業—
～価格調整で野菜破棄? なんとかならないの?～

・ 一時間目 社会科「聞けんかなア農業。
安一さんの“農のある風景”」川島安一先生
・ 二時間目 農業「生産から売り子まで一苦茶と楽
茶」鈴木計芳先生

※今回の授業は一時限 30 分です。

※給食の時間～

ひな祭り・楽しい楽しいひなご膳? で賞味あれ～
10:30 閉校

泳ぎ回るめだかたち

メダカの蕎麦屋さんで

正月明けのそれぞれの降った日曜日、浜市フラワーパーク前の蕎麦屋さんに行ってみました。ともにメダカの生徒である藤野さん御夫妻が開いている店で、ご主人が三年前前に電気工事技術者から転進し、奥さんも一緒に働いています。建物がログハウス風で、建築設計の監修に溝口久さんが関りました。そんなこともあって、開店した頃、営業時間前に覗きに行ったことがありますが、蕎麦は今まで食べたことがありませんでした。いつか、一度は行かなくてはと思っていましたが、近くまで行く用事ができて、昼飯は藤野さんのところと決めて、家内と出かけました。そうしたら、ちょうどそこに俳優の「地井武雄」さん御夫妻が見えていました。

あいにくの天候にもかかわらず、店は混んでいて、二階に設けられたロフトの板の間で少し待ってから下のテーブル席に呼ばれ、蕎麦を注文していると、その地井さん御夫妻が隣のテーブルにきました。それも、店の奥さんが、空いたテーブルと人数の都合からか、地井さん御夫妻よりも後から来たお客さんグループを先に下のテーブルに案内してしまつたのですが、地井さんの奥さんが小さな声で、店の奥さんに「あの、私達、少し急いでいるのですが」と言っただけでした。そんなことがあつてから、私達の席の横が空いたのでそこにお座りになりました。

御夫妻は、ほとんど話もせず、注文

だけして他のお客さんと同じように待っていました。斜め向かいの地井さんの奥さんを見て、どこかで見たことのある綺麗な方だと思つて見えていました。後から、地井御夫妻だとわかつてから思い出したのですが、二〜三週間前に、テレビの旅番組で見たことがあつたのです。

藤野さんの奥さんは、俳優だと気付いていたようですが、静に普通に注文を聞いて対応していました。(さすがです。)

地井さん御夫妻が勘定をして店を出てから、「あの方は地井さんでしたよ」と教えてくれました。このお店は、通りがかりにふらつと入るような場所ではなく、街道から少し入ったところにありますので、はじめから行くかと思つて行かないといけない店です。おそらく滞在されていた館山温泉の宿の紹介で見えたのでしよう。めだかの生徒御夫妻の蕎麦屋さんへ、著名な俳優さんがお忍びで見えたことにとでも嬉しくなりました。

私が、「せいろ」、家内が「かけ」を注文しましたが、どちらも大変おいしく出てきました。ちなみに、地井さん御夫妻も同じ注文でした。少し細めの麺は角がしっかり立って、色も良く、いいつやが出ていました。つけ汁は、いくぶん醤油味がするものの、麺に絡めると癖のない辛汁でした。蕎麦もおいしくて良かったのですが、途中でそつと出てきた「蕎麦湯」がとてもおいしく感じられました。近くまで行つたら、お寄りになるといいです。もちろん、わざわざでも。お店の名前は「ふじ花」といいます。(なんでもあり農園小作人の松)

今年の姫様道中はおもしろい

浜松市 姫様道中(3/31・4/1)を
浜松市政令指定都市誕生記念としていつ

もの姫様道中のほか数々のイベントを開催しますので是非見に来てください。めだかの生徒も沢山参加しています。

1.「姫街道アートギャラリー」 気賀宿の街がまるごと美術館となります。60組のアートイスト(絵画・写真・陶芸・版画・彫刻・クラフト等)が参加して、お寺や教会、民家の協力で展示販売します。

2.「街道絵巻の行列」 江戸時代の「商人や町娘、お百姓、しじみ売り、炭売り、虚無僧、浪人等」に合わせた衣装で誰でも参加できます。

3.「街道物産横丁」 50店舗の三遠南信を中心にして各地域の物産が集まります。参加料テント代 1日5000円 時代衣装で販売される方は特権あり。参加申込締切は2月28日です。

4.「街角ライブ」 音楽(カラオケは不可)・ダンス・大道芸等 姫街道の気賀宿の街角及びステージでライブを行います。また音楽は3月31日はフォーエヴァンポリーを行います。桜堤のメインステージで17時から21時まで。参加無料、但し飛び入り参加は出来ません。

4月1日にはこのメインステージには尾崎亜美が生ステージがあります。また、特別にめだかの家族友人で姫様道中に参加したい方はご連絡下さい。問合せは0533・5223・2958上嶋裕志メダカまで。

ドイツ語基礎会話講座生徒募集

貴方の覚えてたドイツ語で、列車で行ける「ドイツ」、スイス、オーストリアの旅への講座。会話ができる楽しです。警団市立見付公民館とNPO法人健康文化クラブ共催で、四月より月2回金曜日午前9時30分から11時30分の2時間講座を開きます。講座費は2500円(月額)。講師はメ

ダカ生の斉藤昭。ドイツ語の基礎発音から文法、日常生活で使うドイツ語、文章、文化、食べ物など一年間掛けて学びます。問い合わせは05338・32・8374斉藤または見付公民館05338・32・0322共にFAX同じ。

◆ 学舎だより ◆

初代学舎の「いなさ自然休養村 つみくさ」4月15日(予定)をもって店を閉めることに。

平成4年4月3日閉鎖していた建物をリニューアルして始めた「いなさ自然休養村 つみくさ」。16年をもってお店を閉めることに。初代社長には電ヶ岩洞社長の故戸田昭朗メダカ、支配人は榊原幸雄メダカ。つみくさの売り物は、「草を食べよう」の野草料理。

「草を食べる?。なにに1年でつぶれるよ」が、なんと人も変わるも16年。「なぜ学舎だったか」といえば、「支配人のバラさんを応援しよう、引佐の地域おこしの拠点にしよう」と平成5年9月3日「つみくさ」を学舎に第1回めだかの学校が開校されたことに由来する。平成15年3月からは、めだかの学校の関係者以外の人が経営者になったことから厨房が自由に使えず、好意を得て現在の「みどりの郷キャンプ場」に移転した。

「つみくさ」では、2月10日まで「ご予約ありがとう企画」、2月11日からは野草料理の体験などもできる「ありがとう企画」を4月15日までやっていきます。摘み草クッキング主宰の篠原準八、故戸田昭朗、伊藤茂男、武井紀夫、榊原幸雄らめだかの学校関係者らでつくりあげられた「つみくさやそう料理」も「つみくさ」の閉店と共になくなりとなります。お問い合わせは、0533・543・0321中川まで

◇人・ひと・ヒト…だより

・浜松市の渥美登良男メダカ。リンパ癌が再発し入院を繰り返しながらも、職業訓練校の造園指導員や手がけた浜北の万葉の森にも時々出かけ、がんばっている、と。いつもめだかの学校へのエールがありがとう。

・静岡市清水区の花井孝メダカ。川根本町の寸又峡温泉の活性化に「街中“あかりアート”」を提言。「南アルプス山岳図書館」の開設には山岳図書館関係の図書二百冊寄贈。全国茶まつりのプロデューサーなどなど、県内を飛び回っている。出席できないのはムリないか。めだかの学校を離れられないのは鈴木武史メダカとバラメダカとの縁縁だ。

・浜松市の大谷洋介メダカ。古書・古美術・刀剣に造詣深し。若い頃から収集した古書・古美術の専門店「寿山堂」を浜松市中田町で開いている。本人曰く「一人でやっているの店には殆どいない。来店の時にはお電話を090・9940・6823まで。

・森町の田邊哲メダカ。「日本笑い学会」の総会を浜松市でやる事が決定し、がんばっている。7月7・8日(土日)の二日間、場所は静岡文芸大。基調講演は浜松医大の高田昭和教授。めだかの学校には笑い学会の会員のような生徒ばかりだ。笑って笑って善玉菌と免疫力を高めましょう。

・浜松市の加藤直樹メダカ。「今なぜプログなのか?」だって。プログって何?。やっているめだか生はいっぱいいるかなア。今度授業でやってもらおうよ、どう?。そのときはよろしくね。

・秋田県鹿角市の奈良努メダカ。男女共

同参画にはまり、推進委員の仲間とワークシヨップの開催などしている。仕事では「ごみの減量化を考える」ワークシヨップも立ち上げた。ワークシヨップ形式で「地域づくりとは?」もやってみよう。

・御前崎市の中嶋豊メダカ。役場の観光担当に。御前崎市の売り込みで忙しい。「御前崎はいいところだよ。たまには足をのびて遊びに来て!」だって。

・湖西市の寺田悦子メダカ。母校の浜松北高で後輩に合気道の指導。母校に合気道部をつくりたいだって。合気道、着付け、英会話に興味のある方、門をたたいてみたら、美人の先生の指導いいですね。

・磐田市の市議、小野泰弘メダカ。磐田市のこみ処理施設特別委員会の委員長にごみ問題にこまっているとのこと。一筋縄ではないごみ、本当に大変です。

・浜松市引佐町の鈴木一記メダカ。久留女木の棚田で稲作をしながら写真を撮っている。農村文化、民俗などの写真も。個展や仲間展もやっているが、今後は写真集にまとめた、と。

・磐田市の原邦司メダカ。環境に優しい商品の販路開拓をやりながら「子や孫に自慢できる生き方が大事」と。政治家のつなぎ役にも気を注いでいる。相変わらず元氣一杯です。

・浜松市の蜂須賀千賀子メダカ。うなぎ店「かんとろう」をやりながら、あつちに顔出し、こつちに顔出しと忙しい。浜松祭り会場芝生広場で10時から14時まで月一回フリーマーケットをやっている。出店したい人は090・3832・0745まで電話を、だって。

・浜松市の溝口久メダカ。1月8日アキレス腱切断、松葉杖生活が3月まで続き

そう。でも、企画アドバイザーとした稲取温泉観光協会事務局長全国公募で1281名の応募があり、2月4日には選考委員として車椅子で臨む。自宅で口ケした映画「天まであがれ!!」が間もなくDVDで見られます、是非観てね、だって。

紙面の都合で今回はこれまでに。

■訃報

ご冥福をお祈りいたします。

●庵原郡富士川町の天野恵美子メダカ。平成18年11月21日午前10時48分。クモ膜下出血で急逝。享年67歳。天野さんは染と織物の「夢工房」を主宰する染織家。家を改築して息子夫婦と一緒に住んで嬉しかった。孫も生れて、「と喜んでいたので。鈴木武史メダカがお通夜に行ってくれました。生前、天野さんは親友の柚木恵美子元メダカと富士川町の町づくり頑張っていました。

●富士市の佐野久メダカ。平成18年12月24日、頼まれた山林の手入れ中、7mの高さから落下。懸命の手当ての甲斐もなく、同日午後4時19分死去。享年59歳。12月のめだかの学校の時には「玲子(故佐野玲子メダカ)の一周忌の準備もあるので出席できなくてごめん」と言っていたばかりなのに。12月26日通夜のはじまる前に伊藤英雄メダカ・尾上美智子メダカ・榊原幸雄メダカの三人がお別れをしてくれました。

なお、長女で浜松市在住の豊田由美さんが「母と父の遺志を継いで、めだかの学校に入校したい」とのこと。親子ともに凄い。「待つてます」。

●浜松市の岡田清多良メダカ。平成19年1月15日午後4時47分に亡くなりまし。享年67歳。4年前の1月15日健康

診断で「あと半年」とガンを宣告されてから4年。よくがんばりました。「遠来人の会」の会長など多くの人と交流を持ち人脈も広い。めだかの学校では第45回の校長。通夜の前にも奥様とお会いした時めだかの学校に行くのが楽しみで、「みなさまには本当にお世話になりました。」としみじみとおっしゃっていました。葬儀には萩田博・大橋町代・藤田久枝さんから多くのメダカ生が参列しました。

〜めだか春秋〜

チヨットひと言

めだかの学校だより、特別号を拝読。私も馬路村三回、内子町二回、道後温泉数回訪ねた所で、めだかの皆さんのレポートを楽しく拝見。それぞれの土地柄を思い出しながら、「私が初めて馬路村を訪ねたのは今から40年前前で、当時は林業が盛んな頃でした。村の中で魚梁瀬(やなせ)営林署が周辺の国有林を管理しており、その中に天然林でヤナセスギと言われる杉の美林が大切に保護されておりました。それは素晴らしい林相で干本山と言われる区域には、秋田杉・屋久杉と並んで日本三大美林のヤナセスギが林立、それは見事なもので、上を見上げたら鉢巻が落ちたことから「鉢巻落とし」と言われる程天に向かって伸び、太さも3〜4人でやっと抱えられる程の大木たちです。今や地域興しの代表格として脚光を浴びる馬路村。上治村長からのメッセージの冒頭に「森の風をお届けします…」は、まさに魚梁瀬杉。千本山の緑が育んだ森の風ではないでしょうか。そこに日本を代表する美林「魚梁瀬杉」があることをご紹介してペンを擱きます。紀州木の国龍神 真砂典明メダカ

☆ひやりびつくり

おらがめだかのピアノリスト

浜松市の水島加寿代メダカ。1月21日(日)午後1時30分からアクトシティ浜松中ホールで開かれた浜松ピアノ・ワークショップ主催の『春の憧れ』2台ピアノと合唱コラボレーションでピアノ演奏。ドレスの深紅と肌の白はまさに妖麗の美しさ。身体をリズムに合わせて歌うかのような指先は、ピアノと共鳴している。一緒に弾いている妹(・・・)と息づいていたら本当は義姉で年上でしたとの呼吸もピッタリ。エッ、曲目?ムリですヨ。水島加寿代メダカしか見ていなかったのですから。演奏も終わり、あいさつの姿も落ち着いて。『良かったア』と拍手。大谷洋介、西原弘、榊原幸雄・明美の4人の拍手がひととき大きかったのは言うまでもないことでした。もちろんどこかにいるメダカ生も。

☆第17回富嶽ピエナール展で

鈴木真弓メダカ入選

静岡新聞社・SBS静岡放送主催の第17回富嶽ピエナール展に、浜松市のマクラマ作家・鈴木真弓メダカが友人に薦められて応募。なんと34都道府県から571点の応募があり、入選134点(うち入賞13点)の中に初挑戦で入選。マクラマって知ってる?組み紐による創作品。出展部門は工芸だつて。1月2日から1月28日まで、静岡市駿河区合田の静岡県立美術館で展示されていました。

去年12月のある日のこと電話が・・・。「榊原さん、入選しちゃった」と上ずった声。エッ、静岡新聞の富嶽ピエナール展?良かった、良かった!。横文字に弱い私。困ったもので「ピエナール」を「ピナール」と言っ。新聞社に問い合わせた時ついで・・・。電話の向こうの女性記者「ウウン?」でもちゃんと応えてくれました。ハイ。

☆いなさ湖・菜の花プロジェクトの活動が、浜松市の広報2月号に

「都田川ダム湖・菜の花プロジェクト」(石野

省三メダカ代表)が1月28日にいなさ湖屋外ステージに集まって、昨年10月1日に播いた菜の花の手入れ。土づくり、草刈り、堆肥の追肥などが入れば、メダカの課外授業の一端。石野省三、伊藤英雄、徳増兼弘、加藤修一、大谷春代子、渡辺三ツ子、牧野久子、榊原幸雄のメダカ生と地域の人も加わって頑張った。そんな地道な環境保全活動が浜松市本庁にも目が止まり、浜松市の広報の2月号の「広がる・つながる、まちのひと」欄に載りました。取材され役はバラメダカのみ、ごめん。1月29日静岡新聞、2月1日の中日新聞、あなたの顔も見えますヨ・・・。

☆月遅れの楽しい「雑祭り展」

浜松市引佐町流川のてんてんゴーしず川(組合長 伊藤茂男メダカ)では、3月17日から4月5日まで「月遅れの雑人形展」を行います。里山の「ひな祭り」にお出掛けを!。問合せは053・545・0452

◆事務局だより

寒中お見舞い申し上げます。今年には暖冬のためか各地から梅や菜の花の便りがいつもの年より早く聞こえてきます。でも油断は禁物。急に寒くなったりします。お身体にはくれぐれもお気をつけください。切て第54回めだかの学校は12月1日、校長喜瀬川はつえ、教頭村松達雄、用務員徳増兼弘(加藤直樹の代理)で開校。授業に先立って第8回教頭林山寿樹さん(8月世界)と天野恵美子さん(11月世界)2人のために黙禱。村松教頭の進行で、一時限目水野忠義先生「粗大ゴミはどこへ...」どころか、自らが関わりをもつ報徳精神、講演で聞いた「涙の戒め」を涙を流しながら話す。感動。二時限目の今村純子先生。戦後期のテレビ、

洗濯機、冷蔵庫の3つの神器の話から、農林の年中行事の大切さや、正月料理、春の七草などを語る。三時限目は松下信義先生。「チベットの体操」。まさに円田腹式呼吸法。実技を通して学ぶ。「身体の毛細まで血液が行き渡るようにイメージしながら腹式呼吸するのが大切だ」と。喜瀬川校長は訓話の中で「農業経営での千両づくり」について話す。農業の大変さと大切さを実感。お楽しみのは給食は年未年始の盛り盛り料理。満腹満腹。私語飲食全て禁止の3役発表。第55回校長は池田誠二郎、教頭荒木順子、用務員馬淵亮太。脳とエステを支えるのは若き亮太君。乞ご期待を。三役引き継ぎでは、池田校長欠席のため、前校長で当日出席できなかった村木謙次メダカが代理する。村木前校長大喜びだったことは言うまでもない。最後はいつものように大きな輪をつくって再会を約しつづき夜の幕りへ。第55回めだかの学校の職員会議を磐田市のとよおか元氣村一味里で、午後七時から開く。校長、教頭が体調や仕事の関係で出席できず、間瀬亮太用務員が代理であいさつ。いつものようにあってもないで始まり、過剰農作物の価格調整のための破棄」などもあったりして農業について話し合う。静岡県や日本の農政について詳しい川島安一メダカに先生を、もう一人はお茶の生産から販売までをやっている鈴木計芳メダカに白羽の矢を立てる。

キーワードは「脳」と「農」。テーマは「頭っているの?日本の農業」。一時限目川島安一先生。二時限目農業「生産から販売までの苦楽」鈴木計芳先生。などと決まっていたが、後日めだからしい語呂にしようとした。数人の職員と相談して直させていた。また15周年記念事業については、委員の方に委嘱状を授与して委員会です話し合ってもらったことになった。よろしくお願いたします。(委員は第54号で名前掲載。萩田博メダカら追加あり)

■今回もお詫ごとお礼
今年こそはと思いが今も。そんな私を応援してください。伊藤英雄メダカ、服部守孝メダカ、本島慎一郎メダカ、石野省三メダカ、溝口久メダカ、鈴木武史メダカ、照井易子メダカの皆さまありがとうございます。感謝です。

■第14期は、平成18年9月1日から19年8月31日までです。まだ手続きをしない生徒は名簿からはずれ自動退学となりました。再入学は随時受け付けています。入校を希望する方がいましたら事務局までご連絡ください。申込書と資料をお送りします。

■めだかの便りの原稿と情報を! 次回の発行は、5月1日です。4月20日までに郵便かFAXで。メールの方はEメール/teru@nbnnet.co.jpまで(直接メールでお送りの方は割付の関係もあるのでご一報を!)

■めだかの学校事務局
〒434・0036 静岡県浜松市横須賀395の1 榊原幸雄 電話 053・586・8287 (FAX 同)

【注】12月より事務局の住所・電話番号が変わっています。6月号からは磐田市家田(旧豊岡村)になる予定です。ご迷惑をおかけします。がよろしくお願いたします。
※学舎「みどりの郷」に何もありません。連絡・お問い合わせは事務局まで。